
編集後記

早いもので紀要委員を担当して4年目を迎えます。表紙のデザインや体裁を新しいものに変更したのが第5巻1号からで、そのときにこの編集後記を書きましたからおおよそ2年半前ということになります。

第5巻は年1回の刊行でしたが、第6巻からは年2回刊行してきました。本号も含めてこれまでに3回10月付の刊行があったわけですが、掲載した論文の数は多くありません。刊行スケジュールが固まらず、年によって異なっていたため、教員が体感する毎年毎年の大学運営の暦の中に年度末の3月付刊行ほどには定着していないのかもしれません。

しかし、年2回の刊行は若手研究者である教員にとっては論文執筆の貴重な機会を提供する意義を持っています。誰しも最初から上手い文章が書けるわけではなく、書くという経験を積み重ねることで身に付いていく部分が大きいと考えます。学会誌に投稿することは勿論大切ですが、学会誌に投稿する前の段階、混沌とした大量のデータを分析する中で己の考えを論理立てて整理していく研究ノートの的なものであってもよいでしょう。それらを是非文章化して積極的に投稿していただきたいと思っています。

ただ、投稿にあたっては十分に文章の推敲をして欲しいと思います。単独の執筆ならばともかく連名で複数の共同研究者がいる場合は、共同研究者間で必ずチェックをしてください。査読委員が作文指導のごとく「てにをは」の用法の間違いから誤字脱字まで事細かに文章に手を入れるのは本末転倒です。論文の内容を改善・向上させる機会が得られるという点では作文指導も確かに該当しますが、査読委員が貴重な時間と労力を費やすのですから論文内容を評価し、適切な指導をするという本来の機能を果たせるように論文として最低限の体裁は整えていただきたいと思います。学生が書くレポートと同じレベルでは困るのです。

(会田 敬志)

岐阜県立看護大学紀要委員会

委員長	会田	敬志
委員	泊	祐子
〃	田村	正枝
〃	米増	直美

岐阜県立看護大学紀要

第8巻1号 2007年10月発行

ISSN 1346-2520

発行所 岐阜県立看護大学
〒501-6295 岐阜県羽島市江吉良町3047-1
TEL (058) 397-2300 (代) FAX (058) 397-2302
印刷所 印刷の一誠社